

2021 年度 第6 専門技術群（情報系）専門研修の報告

第6 専門技術群運営委員会

1. 概要

第6 専門技術群（情報系）は、2021 年 12 月 3 日、Zoom によるオンラインで専門研修を開催し、36 名の技術職員が参加した。

今回の専門研修は技術職員による技術発表に加え、実機の紹介を交えたオンライン講義とミーティング環境整備の事例紹介と、リモート環境でのコミュニケーションをテーマにした参加者同士のディスカッションの時間も設けた。

2. 受講者

・技術職員

NO	所属	氏名	所属専門技術群	専門分野
1	情報部情報基盤課	成田 祐生	第6 専門技術群	情報処理
2	情報部情報基盤課	下司 和彦	第6 専門技術群	情報処理
3	情報部情報基盤課	南部 博明	第6 専門技術群	情報処理
4	情報部情報基盤課	赤坂 浩一	第6 専門技術群	情報処理
5	情報部情報基盤課	梶原 弘貴	第6 専門技術群	情報処理
6	情報部情報基盤課	當山 達也	第6 専門技術群	情報処理
7	情報部情報基盤課	島袋 友里	第6 専門技術群	情報処理
8	情報部情報基盤課	尾形 幸亮	第6 専門技術群	情報処理
9	情報部情報基盤課	疋田 淳一	第6 専門技術群	情報処理
10	情報部情報基盤課	山口 倉平	第6 専門技術群	情報処理
11	情報部情報基盤課	中井 隆史	第6 専門技術群	情報処理
12	情報部情報基盤課	高岸 岳	第6 専門技術群	情報処理
13	情報部情報基盤課	戸田 庸介	第6 専門技術群	情報処理
14	情報部情報基盤課	石井 良和	第6 専門技術群	情報処理
15	情報部情報基盤課	宮部 誠人	第6 専門技術群	情報処理
16	情報部情報基盤課	山中 香子	第6 専門技術群	情報処理
17	情報部情報基盤課	片桐 統	第6 専門技術群	情報処理
18	情報部情報基盤課	岡島 賢一郎	第6 専門技術群	情報処理
19	情報部情報基盤課	久保 浩史	第6 専門技術群	情報処理
20	情報部情報基盤課	石橋 由子	第6 専門技術群	情報処理
21	複合原子力科学研究所技術室	平井 康博	第6 専門技術群	情報
22	複合原子力科学研究所技術室	張 儉	第5 専門技術群	原子力工学・伝熱促進
23	薬学研究科	江藤 哲治	第6 専門技術群	情報管理
24	理学研究科	高畑 武志	第6 専門技術群	情報処理

25	理学研究科附属地球熱学研究施設	馬渡 秀夫	第2専門技術群	データ計測、情報、機械、化学
26	基礎物理学研究所	黒田 誠	第6専門技術群	情報
27	数理解析研究所附属計算機構研究施設	岸本 典文	第6専門技術群	情報基盤
28	フィールド科学教育研究センター	楨田 盤	第6専門技術群	情報処理
29	フィールド科学教育研究センター	中村 はる奈	第6専門技術群	情報処理
30	フィールド科学教育研究センター	中川 智之	第4専門技術群	森林管理
31	エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター	大村 高正	第2専門技術群	電気
32	エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター	高塚 真理	第2専門技術群	コンピュータ関連
33	防災研究所技術室	長岡 愛理	第2専門技術群	観測
34	工学研究科附属情報センター	茶谷 祥太郎	第6専門技術群	情報技術支援
35	工学研究科附属情報センター	奥中 敬浩	第6専門技術群	情報技術支援
36	工学研究科附属情報センター	浅野 義直	第6専門技術群	情報技術支援

・オブザーバー参加

1	情報部情報基盤課	辰己 幸江	-	情報処理
2	総合専門業務室	栗川 和巳	-	情報処理

3. プログラム

時間	内容
8:50 - 9:00	各会場より Zoom 接続
9:00 - 9:15	開会挨拶、ガイダンス
9:15 - 10:15	「オンライン講義・ミーティング環境整備事例に学ぶ」 ・配信設備の整備、Web カメラ・スピーカーフォンの整備等、 部局で対応した事例をリレー形式で順に発表 ・新製品を借用し、体験 ・質疑応答、ディスカッション
10:15 - 10:30	休憩
10:30 - 12:00	技術発表（30分×3本） 「基研計算機室技術職員 1年目の報告」 基礎物理学研究所 黒田誠 「仮想型教育学習端末の運用について」 情報部情報基盤課学習用メディア管理掛 南部博明 「オンライン講演の課題と取り組み」 数理解析研究所 岸本典文
13:00 - 14:30	技術発表（30分×3本） 「全学メールホスティングサービスの移行」 情報部情報基盤課業務システム管理掛 成田祐生 「事務用封筒一括契約の申込受付業務における Google スプレッドシートと Google Apps Script による業務改善」 情報部情報基盤課業務システム管理掛 下司和彦 「アカデミッククラウドシステムのご紹介」 情報部情報基盤課研究情報主査 赤坂浩一
14:30 - 14:45	休憩
14:45 - 16:25	「リモート環境でのコミュニケーションについて」 ・リモート環境におけるコミュニケーションについて、多様な観点から問題、課題を挙げてディスカッション
16:25 - 16:30	閉会挨拶、退出

4. 課目の詳細

4.1 オンライン講義・ミーティング環境整備事例に学ぶ

講義の配信設備の整備や、講演会の配信事例について下記の通り各部局から事例紹介を行った。

- ・Web カメラ、マイクの紹介 数理解析研究所 岸本典文
- ・講演会のオンライン配信について フィールド科学教育センター 中村はる奈
- ・ハイフレックス授業用機器整備の事例紹介 工学研究科 茶谷祥太郎

続いて、配信用の機材をレンタルし実演を通して使用感を確認した。

- ・Poly Studio X50 複合原子力科学研究所 平井康博
- ・MAXHUB 情報部情報基盤課業務システム管理掛 下司和彦

事例紹介は結果だけでなく、実施までの経緯や考え方も学ぶことができた。また実機の紹介も俯瞰した映像を流すことで、操作している様子が分かりやすかったとの声があった。



写真1 MAXHUB 紹介の様子

4.2 技術発表

6人の技術職員が業務で得られた知見や成果を発表した。参加者の感想の一部を抜粋する。

1. 基研計算機室技術職員 1年目の報告 基礎物理学研究所 黒田誠

- ・1年目からこのような機会に発表されることが素晴らしいと思えた。
- ・CentOSのサポート終了がここまで大きな影響があったとは知りませんでした。

GoogleWorkspaceのポリシー変更など予算が削減される中無償やフリーミアムモデルのサービスについては今後注意が必要と改めて認識しました。

- ・天井設置のマイクはカタログ等で見たことがあり興味を持っていたが、空調の音を拾ってしまう問題を知ることができ参考になった。このように各部局が導入した機器の紹介は他の部局にとって大変役立つ情報だと思う。

2. 仮想型教育学習端末の運用について 情報部情報基盤課学習用メディア管理掛 南部博明

- ・学生サービスということもあり、サービスのイメージは把握していたが、サービス内容の詳細が知ることができたので良かったです
- ・コロナで急激に利用が増える中、既存リソースを工夫してやりくりするのは大変だと思いました
- ・はじめて知りました。仮想型（VDI）が便利なので、試してみたいです。

3. オンライン講演の課題と取り組み 数理解析研究所 岸本典文

- ・数理研での課題と取組が大変参考になりました。学外からの滞在者が多い数理研ならではの課題に取り組んでおられることがよくわかりました。
- ・成功事例だけではなく、紆余曲折・方法にこだわらず現場に寄り添ったカイゼンの経過につきましても大変参考になりました。
- ・配信体制の確立後も黒板の配信やアフターコロナを見据えた整備といった工夫を続ける姿勢がすごいと思いました

4. 全学メールホスティングサービスの移行 情報部情報基盤課業務システム管理掛 成田祐生

- ・一般企業で見たことがない、同じ組織内に多数のドメインが存在することにびっくりし、これに伴う移行の大変さを知ることができました。

- ・メールホスティング内の構成がよく分かり参考になりました。自身もメールサーバを構築・運用しているため、有意義でした。
- ・失敗すると物凄い影響のある作業で、かなり入念に準備されてきたのだろうなと思い感心しました。

5. 事務用封筒一括契約の申込受付業務における Google スプレッドシートと Google Apps Script による業務改善 情報部情報基盤課業務システム管理掛 下司和彦

- ・Google スプレッドシートは便利なので、使ってみたいです。Google Apps Script が難しそうですが、その機能を知ってよかったです。
- ・Google Apps Script については実例を一度見てみたかったので大変参考になりました。
- ・ちょっとした工夫で改善できる業務が京大に多数あると感じました。良い部署だと思います。

6. アカデミッククラウドシステムのご紹介 情報部情報基盤課研究情報主査 赤坂浩一

- ・情報系の研修内容にあって、CO2 削減などの課題についても触れられていることに驚いた。
- ・汎用コンから ARCS に至るまでのお話が興味深かったです。新しい VM ホスティングサービスを提供されるための検討内容などが大変参考になりました。
- ・クラウドを利用する上での注意点や事業者の選び方など、具体的なお話を聞くことができ勉強になりました。



写真2 技術発表の様子

4.3 リモート環境でのコミュニケーションについて

最初に、オンラインコミュニケーションツール Gather で交流を行う様子が紹介された。Gather の技術的仕様により、ネットワーク環境によっては正常に動作しない場合もあり、その点も含めて事前準備の大切さがわかった。



写真3 Gatherで交流している様子

続いて、リモート環境におけるコミュニケーションについて6つのサブテーマにグループを分けて、課題と解決法についてディスカッションを行った。

- ・「IT サポート」

オンライン環境での学生や教員のITサポート対応（在宅勤務へのサポート含む）をどうするか。および、在宅勤務でのITサポートの可能性と限界について。

- ・「コミュニケーション」

コミュニケーション手段が、オンライン／リモート化された状況において、部署内／部署外の人間関係をどのように構築するか。オンライン飲み会の効果など。

- ・「業務分担や業務経験」

オンライン／リモート化された状況において、どのように安定した業務の標準化や業務分担を実現するか。また、どのように業務経験を積み、継承していくか。

- ・「ツール／環境 1」

オンラインでの業務における必要なツール／環境について。業務に必要な会議などのツール、在宅勤務時の自宅の環境、快適なオンライン業務環境を作るツールなど。ハイフレックス環境（リモートとリアルで同じ体験ができる環境）をどう構築するか。

- ・「ツール／環境 2」

機密性のある情報のオンラインでの取り扱い方法について。どのように便利に安全に取り扱うか。録画した動画の取扱い方法。

- ・「セキュリティ」

在宅勤務やリモート環境における情報セキュリティとして気を付けないといけないこと。

普段交流の機会がない他部局の技術職員と話すことができ、色々な考え方に触れられたことが良かったという意見が多かった。ディスカッションにあたっては、どのグループもクラウドのホワイトボード機能や、共有ドキュメントを活用していた。特に運営側から指示があったわけではないが、情報系を専門とするだけあって、ICTリテラシーの高さが伺えた。

5. まとめ

今回の研修は、急速に需要の増えたオンライン講義やリモート環境でのコミュニケーションを主題として行った。昨年度来、感染症予防対策として多くの技術職員が対応に迫られたであろう内容で、問題意識をもって主体的に臨んだ参加者が多かったように見受けられた。そのことがディスカッションでの活発な意見交換にも繋がったと思われる。

また技術発表においては、Google Apps Script による業務の効率化の事例が特に関心を集めていた。業務として活用することで、構築までの考え方や注意すべき点などがまとめられており、参加者にとって学びの多い内容だったと考えられる。

研修の形式についても、オンラインでありながら機材の紹介を行ったり、ディスカッションを行ったりと、新たな試みに挑戦することができた。研修の企画者としても、参加者としても総じて内容の濃い研修であったと言える。今後とも群として、技術職員の職務に資する活動をして参りたい。



写真4 運営の様子